

綿向山へ行こう(枚岡 NC スタッフ研修)

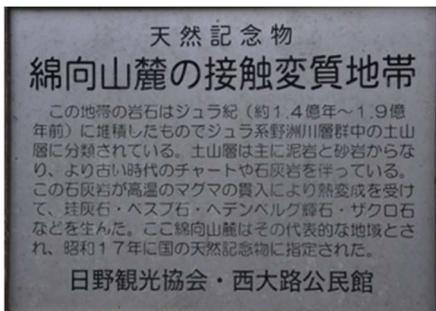
滋賀県の鈴鹿国定公園にある綿向山(標高 1,110m)は、古くからの信仰の山で自然も豊かな山です。平成 8 年に標高の 1,110m にちなみ 11 月 10 日を「綿向山の日」と日野町長が制定しました。町の人々からも親しまれる山であったので、平成 11 年に「綿向山を愛する会」が作られたようです。

ここに、わが枚岡 NC の H 氏が在籍し環境保全活動をしています。そこで、少しでも私たちがこの山のことを知ろうと今回「綿向山の日」に登山することにしました。

2016 年 11 月 10 日 午前 7 時 30 分に JR 大阪駅ホームに 5 名(男性 3 名女性 2 名)が集まりました。予定より 1 本早い電車に乗り JR 近江八幡駅に 8 時 40 分頃到着。南口でバスを待っている間は、冷たい強い風が吹いていました。幸いなことに雨は落ちてきていません。きっと、よい登山日和になることでしょう。バスに小一時間ゆられ、北畑口で下り、無料の送迎バスで登山口に着きました。時刻はすでに 10 時 40 分です。



すっかり紅葉している駐車場の辺りから、登って行きます。新鮮な野菜や果物、山菜おこわなども売る店もたくさんありました。私たちは来るのが遅かったためか、これから登ろうとしている登山客はそう多くはいませんでした。川に沿って林道を歩いていると露出している『接触変質岩』が見られ、これは国の天然記念物ともなっているそうです。



ヒノキの植林の山道をくねくねとひたすら登って行きました。3 合目では、日野祭りのお囃子隊の太鼓や笛の音がしていたり、森のカフェテラス横では、ウサギに扮装したお姉さんがアコーディオンをひいていたりにして、何やら楽しそうな雰囲気でした。

やっと、5 合目小屋につき、景色もバッチリ見えました。ここで、K さんが頂上まで行く私たちを待つという判断をしたので、ここからは、4 人で上を目指しました。



7合目の行者コバで、やっと先に登っていたF氏と会いました。もう、下山する途中で、私たちがあまりに遅いので心配して待っていてくれました。そこで、朝から「綿向山を愛する会」の活動をしていたH氏とも会うことができ、最後の急登である冬道ルートで5人で登って行きました。山頂に着く前に不思議な形をしたブナに会いに行きました。

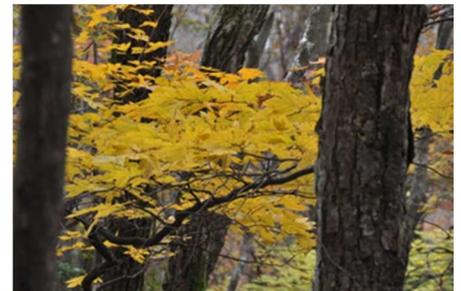


時刻はすでに午後1時を過ぎていましたが、しばし周りの景色を楽しみました。雲がたれこめ、気温も下がってきたので、急ぎピークを目指しました。

午後1時54分に無事到着です。ピークからは伊勢湾や比良山系が見えました。天気の良い冬場は北アルプスや南アルプスまで見えるそうです。



食後、美しいブナの紅葉の中を下山しました。ピーク付近はイブキザサに覆われていましたが、下るにつれまだまだ紅葉が楽しめました。



五合目小屋で再び、Kさんと合流し駐車場まで下山をしました。もう、ほとんどの人が降りていたようでしたが、なんとか救助隊のお世話にもならず、16時に下山できました。

晩秋から初冬の山の雰囲気をついばい味わうことのできた一日でした。また、地元だけでなく遠くからもこの綿向山を目指してくる方がたくさんおられ、みんなに愛されている「綿向山」だと実感することができました。